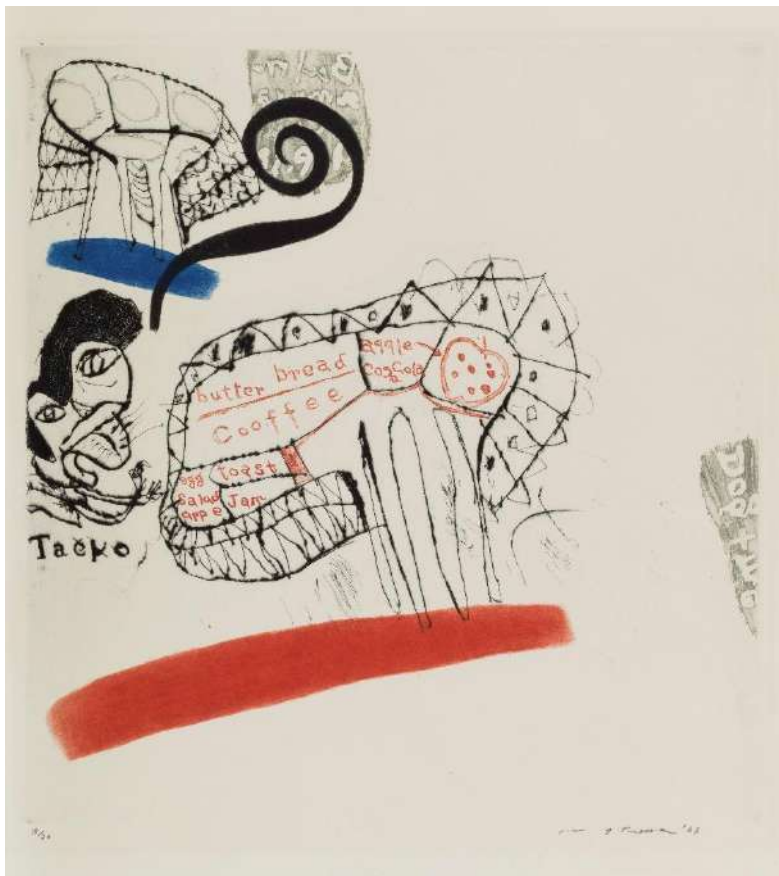


PRESS RELEASE 2023.7.31

# とびたつとき——

## 池田満寿夫とデモクラートの作家

Moments to Fly Up Ikeda Masuo and the Demokrato Artists



池田満寿夫《タエコの朝食》1963年、長野県立美術館蔵



池田満寿夫《愛の瞬間》1966年、長野県立美術館蔵



池田満寿夫《退屈な時間》1955年、広島市現代美術館蔵

2023年9月9日(土)—11月5日(日)

長野県立美術館 展示室1・2・3

### ■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣)

TEL:026-232-0052 FAX:026-232-0050 E-mail: nam-pr@naganobunka.or.jp

池田満寿夫が1997年に亡くなって四半世紀が経ちました。彼の版画作品がどれほどまでに世界で評価され、また彼が芸術家としての道をいかに情熱的に歩んだか、今日あらためて問いかけることには大きな意味があると思われます。

池田満寿夫は、1934年に旧満州国・奉天で生まれ、終戦の年に父母と共に長野に引き揚げました。長野県長野北高等学校（現・長野県長野高等学校）を卒業後、画家を志して上京し、東京藝術大学を3回受験するも失敗に終わります。そうした頃、1955年に鬚嘔(あいおう)と出会い、彼を通じて、デモクラート美術家協会を創設した瑛九（えいきゅう）や美術評論家の久保貞次郎を知ることになります。

デモクラートの作家たちは多くの人に見てもらえる版画の制作に力を入れ、瑛九のすすめを受けた池田も若手のひとりとして、その活動に参加しました。そして泉茂や吉原英雄、加藤正らとの交流を深め、自身も久保の後援により銅版画の制作に打ち込んでいきました。

戦後、国力を回復してきた日本は、初の国際現代美術展として1957年に第1回東京国際版画ビエンナーレ展を開催します。池田のほかデモクラートの多くの作家たちが同展に出品、入選し、彼らの飛躍のきっかけとなった一方、瑛九は同年にデモクラートの解散を決めます。以降も若い作家たちは版画の可能性を拡張する旺盛な活動を見せ、なかでも池田は1966年のヴェネチア・ビエンナーレで版画部門国際大賞を受賞するなど、国際的な評価を受けて脚光を浴びていきました。

本展では、1950年代から1966年頃までの池田満寿夫の作品とともに、池田が影響を受け、また交遊のあった作家の作品を紹介し、当時世界を席卷した日本の版画を振り返ります。

## ▶ 展覧会概要

『とびたつとき—池田満寿夫とデモクラートの作家』

会 期 | 2023年9月9日（土）～11月5日（日）＊休館日 | 水曜日

会 場 | 長野県立美術館 展示室1・2・3

開館時間 | 9:00～17:00（展示室入場は16:30まで）

観 覧 料 | 一般800（700）円、大学生及び75歳以上600（500）円、高校生以下又は18歳未満無料

※（ ）内は20名以上の団体料金 ※本館コレクション展及び東山魁夷館との共通料金：一般1,300円、大学生及び75歳以上900円

※割引の併用不可 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添いの方1名は無料

主 催 | 長野県、長野県立美術館

共 催 | 長野県教育委員会

協 力 | 広島市現代美術館、和歌山県立近代美術館

後 援 | 長野市、長野市教育委員会、長野商工会議所、善光寺、長野県芸術文化協会、長野県美術教育研究会、（公財）八十二文化財団、（公財）ながの観光コンベンションビューロー、JR東日本 長野支社、信濃毎日新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、FM長野、INC長野ケーブルテレビ

担当学芸員 | 池田淳史、堀千晶

## ▶みどころ

- 貴重な初期の油彩画から、受賞を重ね世界へと進出した1960年代の版画まで、池田満寿夫の作品を当時の資料と共に展示します。
- 鬚嘔や瑛九に加え、泉茂や吉原英雄といった、県内ではあまり展示される機会がなかった関西デモクラートの作家たちを紹介します。
- 《太陽と女》(1957年、第1回東京国際版画ビエンナーレ展入選)を始めとした、当館所蔵の池田満寿夫作品を参考出品として展示します。
- 池田の大きな飛躍の一つとして、ニューヨーク近代美術館での個展開催(1965年)が挙げられます。第5章では参考出品作を交えて、展示の一部を再現します。
- 関連イベントでは、生前の池田を知る方々による講演や対談を通じて、それぞれの視点から池田のリアルな姿を浮かび上がらせてます。また版画をより身近に感じていただくために、一般向けの版画講習も開催します。

## ▶展示構成

### I デモクラートとの出会い 1950-1956 (展示室1)

デモクラート美術家協会には、鬚嘔や泉茂、吉原英雄らが参加し、互いに切磋琢磨しながら版画を軸とした新たな表現を探究していました。一方、長野から上京した池田満寿夫は、鬚嘔らとグループ「実在者」を1955年に結成します。翌年には解散を迎えますが、瑛九との出会いにより池田はデモクラートの活動、そして版画へと注力していきます。

### II 起点としての瑛九 1950-1957 (展示室1)

既存の団体展に異を唱えて、1951年にデモクラート美術家協会を設立した瑛九は若き芸術家たちにとって理論的な、そして精神的な指導者でした。表現においても油彩、水彩、フォト・デッサン、エッチング、リトグラフと様々なメディアを駆使し前途を切り拓いていきました。

### Ⅲ 夜明けまえ 1957 (展示室 2)

1957年に開催された第1回東京国際版画ビエンナーレ展には、池田を始めとして多くのデモクラート作家たちが入選を果たし、版画への熱が高まっていました。中でも泉茂は《鬪鶏》により新人奨励賞を受賞します。しかし、展覧会の初日に瑛九はデモクラートの解散を発表、わずか6年で協会としての活動は幕を下ろしました。

### Ⅳ それぞれのとびたつとき 1958-1966 (展示室 2)

デモクラート解散後、作家たちは瑛九の下を離れ、再び新たな表現の模索を始めました。版画に留まらず絵画へと向かったり、海外へと拠点を移したりと大きな動きが見られるようになります。瑛九の死後、1960年代に入ると国際展へ選出される作家も増え、まさに「とびたつとき」を迎えます。

### Ⅴ 池田満寿夫 とびたつとき 1958-1966 (展示室 3)

1960年の第2回東京国際版画ビエンナーレ展で文部大臣賞を受賞した池田は、その後第4回展まで連続受賞の快挙を達成します。1965年にはニューヨーク近代美術館で日本人初となる個展が開催され、翌年のヴェネチア・ビエンナーレでの国際大賞受賞により評価を確立しました。

## ▶ 出品作家

---

池田満寿夫 (1934-1997)

あいおう  
駿嘔 (1931-)

泉茂 (1922-1995)

磯辺行久 (1935-)

瑛九 (1911-1960)

加藤正 (1926-2016)

利根山光人 (1921-1994)

船井裕 (1932-2010)

吉原英雄 (1931-2007)

## ▶ 関連イベント

---

### 【講演会】「版画との出会い—池田満寿夫さんの思い出」

日時：9月10日（日）14:00～15:30

講師：山本容子（銅版画家）

会場：本館B 1 F ホール

定員：100名（当日先着順、参加無料）

### 【対談】「同級生が語る満寿夫像」

日時：9月30日（土）13:30～15:00

講師：荒井一章（不忍画廊会長、長野高校OB）

木内真由美（長野県伊那文化会館学芸主幹）

会場：本館3F レセプションルーム

定員：40名（当日先着順、参加無料）

### 【学芸員によるギャラリートーク】

日時：10月15日（日）14:00～15:00

会場：展示室1、2、3（要観覧券）

### 【おとなアートラボ】「銅版画の技法やプレス機を使って、版画作品をつくりましょう」

日時：10月9日（月祝）13:30～16:30

講師：長野県立美術館スタッフ

会場：本館3F レセプションルーム

定員：10名（参加費：500円）

申込：9月16日（土）より当館HP 応募フォームにて受付

※汚れてもいい服装でお越しください

## ▶ 同時期に開催の展覧会

---

NAM コレクション 2023 第Ⅲ期 会期：2023年7月27日（木）－ 9月19日（火）

NAM コレクション 2023 第Ⅳ期 会期：2023年9月21日（木）－ 11月28日（火）

東山魁夷館コレクション展 2023 第Ⅲ期 会期：2023年8月24日（木）－ 10月31日（火）

東山魁夷館コレクション展 2023 第Ⅳ期 会期：2023年11月2日（木）－ 2024年1月16日（火）

長野県立美術館 行 メール：[nam-pr@naganobunka.or.jp](mailto:nam-pr@naganobunka.or.jp) FAX：026-232-0050

## 広報用画像申込書

### とびたつとき－池田満寿夫とデモクラートの作家

会期：2023年9月9日（土）～11月5日（日）

■本展覧会の広報用写真を用意しております。ご希望の写真の左欄に○をつけて、メールまたはファックスにてお申し込みください。写真はデータにてお送りします。

○をつけてく ださい	番号	画像名
	①	池田満寿夫《真昼の人々》1955年、長野県立美術館蔵
	②	池田満寿夫《退屈な時間》1955年、広島市現代美術館蔵
	③	池田満寿夫《タエコの朝食》1963年、長野県立美術館蔵
	④	池田満寿夫《愛の瞬間》1966年、長野県立美術館蔵
	⑤	加藤正《第2回「デモクラート美術展」ポスター》1953年、和歌山県立近代美術館蔵
	⑥	鬚嘔《田園》1956年、和歌山県立近代美術館蔵
	⑦	瑛九《旅人》1957年、和歌山県立近代美術館蔵
	⑧	泉茂《闘鶏》1957年、和歌山県立近代美術館蔵
	⑨	利根山光人《子供のいる風景》1957年、和歌山県立近代美術館蔵
	⑩	吉原英雄《潜水A》1957年、個人蔵

#### ●貴社についてお知らせください

貴社名  / 媒体名（雑誌、番組名等）

---

ご担当者名  / 所属部署

---

ご住所〒

---

電 話  / FAX

---

E-mail

ご掲載・放映の予定日があればお知らせください。 月 日（ ）に発行、または放映予定

※掲載紙・誌を1部ご惠贈いただければ幸いです。

## 広報用画像

※画像提供をご希望の場合は、別紙「広報用画像申込書」に必要事項をご記入のうえ、メール又はファックスにてお申し込みください。

①



池田満寿夫《真昼の人々》1955年、長野県立美術館蔵

②



池田満寿夫《退屈な時間》1955年、広島市現代美術館蔵

③



池田満寿夫《タエコの朝食》1963年、長野県立美術館蔵

④



池田満寿夫《愛の瞬間》1966年、長野県立美術館蔵

⑤



加藤正《第2回「デモクラート美術展」ポスター》1953年、和歌山県立近代美術館蔵

⑥



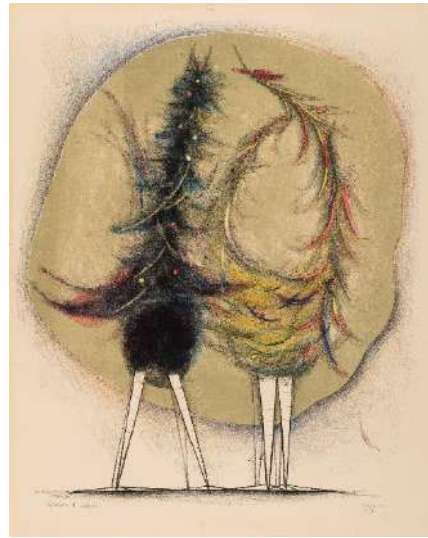
鬮嘔《田園》1956年、和歌山県立近代美術館蔵

⑦



瑛九《旅人》1957年、和歌山県立近代美術館蔵

⑧



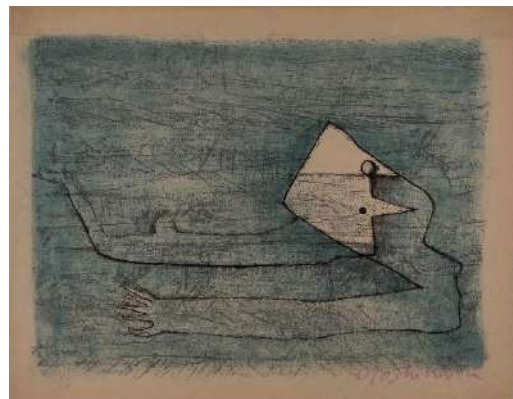
泉茂《闘鶏》1957年、和歌山県立近代美術館蔵

⑨



利根山光人《子供のいる風景》1957年、  
和歌山県立近代美術館蔵

⑩



吉原英雄《潜水 A》1957年、個人蔵

■報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館 広報・マーケティング室

〒380-0801 長野市箱清水 1-4-4(善光寺東隣)

TEL:026-232-0052 FAX:026-232-0050 E-mail: nam-pr@naganobunka.or.jp